

平成 28 年 11 月 8 日

岩手県地域型復興住宅
生産者グループ代表・構成員
岩手県建築士事務所協会会員 各位

岩手県地域型復興住宅推進協議会
会長 新沼 義雄
岩手県森林組合連合会
代表理事長 中崎 和久

林野庁補助事業による解体再使用の容易な木造準耐火構造（F S B 工法）
の準耐火認定及び構造評定に関する報告並びに製造及び建築技術研修会の
開催について

時下、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より、当推進協議会の運営に際しまして、格別のご支援を賜りありがとうございます。

この度、地域型復興住宅の推進及び木造建築物並びに木材利用拡大の推進を図るため、林
野庁補助事業で行いました耐火実験が成功し構造評定の目途が立ったことから、その情報を
共有するため、報告を兼ねて標記研修会を開催することといたしましたが、あわせてパネル
の作成行程についても説明いたしますので製材関係者の参加も期待しております。

つきましては、多数の方々に出席いただき本県における木造建築の推進と木材利用拡大に
寄与いただきますようお願い申し上げます。

なお出席については裏面申込様式にてお申込みいただきますようお願い致します。（出席
者は 1 社につき複数可です。）

記

- 主 催 岩手県地域型復興住宅推進協議会・岩手県森林組合連合会
- 日 程 平成 28 年 11 月 24 日（木） 13 時 30 分より
- 場 所 マリオス盛岡地域交流センター 18 階 188 会議室
- 内 容 解体再使用の容易な木造準耐火構造の技術について
講師 榎結設計 代表取締役 藤原 昭夫 氏
- 定員・締切 100 名 平成 28 年 11 月 18 日（金）締切
（締切り前でも定員になり次第締め切らせていただきます。）
- 申込方法 事務局（一社）岩手県建築士事務所協会へ申込書にご記入の上 FAX 願います。
FAX 番号 019-651-8677
申込後は直接会場へいらして下さい。定員になった場合のみご連絡差上げます。
- お問合せ先 事務局（一社）岩手県建築士事務所協会
〒020-0016 盛岡市名須川町 18-16 建築会館 電話 019-651-0781

【裏面あり】

【会場地図】 マリオス盛岡地域交流センター 18階 188会議室
 盛岡市盛岡駅西通2丁目9-1 TEL 019-621-5000



『林野庁補助事業による解体再使用の容易な木造準耐火構造（FSB工法）
 の準耐火認定及び構造評定に関する報告並びに製造及び建築技術研修会』
 申 込 書

平成 年 月 日

勤務先	
氏 名	
グループ名 (生産者 グループの方は記入)	
勤務先住所	〒 —
	TEL. — — FAX. — —

申込 FAX 番号 019-651-8677

(一社)岩手県建築士事務所協会挑戦木造軸組み新工法の60分耐火試験報告

－木部現し木造準耐火工法の古くて新しい世界の幕開け－

提案趣旨：2016年9月(一社)岩手県建築士事務所協会実施の、木造105角材連結壁木製外部仕上げ付、及び120角材連結躯体表し木造軸組構造の耐火試験(60分)、並びその工法での構造評定の報告です。この事業で可能になった木造軸組新工法の紹介と、**建築が環境正常化実現のツールになり得たことによる新市場の開拓提案**です。

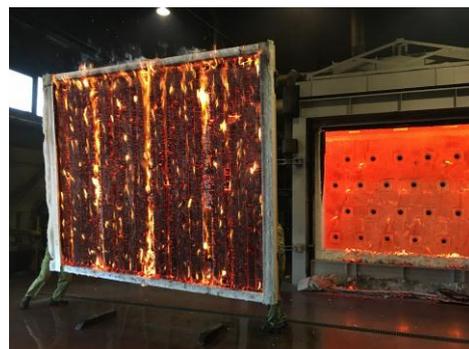
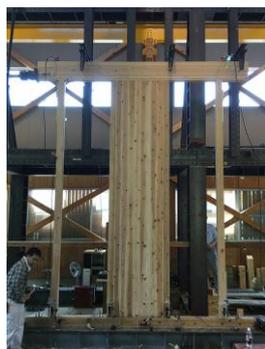
今日の異常気象からも、現代文明が地球環境に人類存続の許容限界を越えた影響を及ぼしている事実は、もはや議論の余地ない程明らかで、現代文明を構成する全ての産業が、そのために何をなすべきかを問われています。

これまでの建築は、自然形質の損傷、新建材生産や輸送等での化石エネルギー消費、温暖化ガスの産出、建設廃材の排出など、地球環境に負荷を増大させる仕組みの上に成立してきました。これを改め、建築を、解体及び部材の再使用の容易なFSU工法(旧FSB工法)にすることで、建設廃材の産出を削減し、使用材の殆どを循環型資源である木材で構成することになり、森林整備を広げ、二酸化炭素の吸収を促進させる仕組みとなります。これは、環境の負荷増大行為であった建築行為を負荷削減行為に転換することになり、建築する意味を全く違うものにします。

この建築の仕組みは、時代の必然です。これを世に根付かせ、地球環境の負荷を軽減する社会構造を、競い合う市場の建築を通して構築していこうという提案です。3000㎡の木部現し3階建て特殊建築物の市街地での可能性、木造打ち(建て)放し、DIY需要者への木造スケルトンの提供、引っ越しの容易な建築、等々の提案です。



耐力試験



耐火試験



森林組合事務所建方の様子

提案説明内容

A FSU 工法の概要：工法を知っていただくために

- (1)新工法の構成と構造形態実演説明及び旧 FSB から新 FSU 工法
- (2)工法汎用のための法的整備：構造評定と準耐火試験
- (3)本工法の建築特性と骨格としての建築の重要性
- (4)なぜ環境負荷削減型建築になるのか

B 躯体現し木造打ち(建て)放し準耐火構造が切り開く新市場

- (1)市街地での内外木製(躯体)仕上げの住宅・建築
- (2)内部木造躯体現し木造二、三階建て住宅
- (3)木造躯体現し 3000 m²三階建て建築：公共建築、等特殊建築物

C 解体と解体部材再使用の容易な工法による木造新市場開拓

- (1)引っ越し可能な建築
- (2)短期使用型建築の新市場
- (3)現場加工の殆どない工法建築
- (4)部分解体や増改築の容易な建築
- (5)建築中古部材の流通

D スケルトン建築がもたらす新市場

- (1)DIY 需要者対応スケルトン提供
- (2)ホームセンター対応のスケルトン提供
- (3)規格型建築へのスケルトン提供
- (4)加工場のない市中工務店へのスケルトン提供＝工務店のブランド化

E FSU(旧 FSB)工法普及のために

建築の仕組みが環境負荷削減型になるためには、部材段階から確かな製作がなされ、建築も工法に則った建て方であることをチェックし、管理していく必要があります。また部材が再使用のためには、どのような部材がどこにどのように建っているかの情報の収集と管理公開が必要です。そのような仕組み上で建築されてこそ、建築が環境正常化に貢献する社会事業となります。そのため早急に、そのような管理を行う組織をつくる必要があると考えております。



住宅建方の様子